



質問者
桑野元澄議員

三木露風生家の早期活用について

問 三木露風の生家については、龍野地区まちづくり協議会及び龍野地区自治会などの地域住民の要望を受け、当時の持ち主から平成22年12月に購入している。

購入後、早くも1年以上経過しているが、今後の修復計画と活用計画を伺う。

答 三木露風生家活用検討会を平成22年10月から合計3回開催し、今後の活用方針、生家・離れの取扱い、管理方法などを検討していただいた。

修復方法については、①露風が生活していた当時と比較的関わりが深い、座敷・居間あたりを修復する。②露風が過ごしていたときには無かった、風呂場・便所などの増築部分は解体する。③瓦な

どの古い材料をできるだけ限り再使用し、新旧の違和感の減少に努める。なお、工事費については、特殊な工事になるため、約5900万円を予定している。

完成後の活用方法などについては、三木露風生家管理運営検討委員会の意見を参考にしたいと考えている。

露風の原風景の復活について

問 たつの市のシンボルは「赤とんぼ」といっても過言ではない。童謡「赤とんぼ」が歌われ始めて80年。NHKの名曲アルバムでも、未来に残したい名曲の12位にランクするなど、日本人にとって故郷を思い浮かべ、心に残る歌として親しまれている。

「赤とんぼ」を全国に発信し、たつの市に多くの観光客を呼び込むため、「赤とんぼ」が舞う原風景を取り戻す活動を市民グループと一緒に進めてはどうか。

答 市民と市職員が連携

して行う「たつのまちづくり塾」に参加された「たつの・赤とんぼを増やそう会」は、ヤゴの収集や人工飼育、各地での捕獲調査などの活動を平成20年度から継続している。市としてもこのような活動に対しては、自立のまちづくり事業支援要綱に基づき支援を行っているところである。

問 「赤とんぼ」の飼育場を整備し、子どもたちが「赤とんぼ」を飼育することで、環境への配慮や自然を考える力、生物への関心を高める教育につながるかと考えるがどうか。

答 生物の生態環境学習や自然環境学習の一環として、小宅小学校など市内3小学校が「たつの・赤とんぼを増やそう会」の協力を得ながら、プールでのヤゴ救出作戦、アカカネの捕獲、ビオトープ及び飼育用のカゴの設置などを行っているところである。



質問者
松井重樹議員

求む！型破り

問 施政方針の「自立のまちづくりの深化、拡充」は、市民に自立意識の熟成を求めるものであろう。しかし市民に自立を求め

るあまり、本来地方公務員たる職員が職責として一身に担わねばならない職分をあいまいにする両刃の剣にもなる。

都市計画などには、現場主義という一時即断で求められる意識改革とは趣きの異なる能力が求められると考えるがどうか。

答 現場主義への意識改革が、まちづくり塾、休日窓口開庁など枚挙にいとまがないほどの職員の提案で実を結んでいる。

問 国の補助金メニューを施策にあてはめる術にとんだ者が優秀とされた時代がある。自立まちづくりメニューを例えれば、行政側からすればメニュー

ー呈示を理由に「する・しない」は市民任せ、市民側からすれば公金目当ての事業化申請という「型」の出来上がり心が配なのだ。法文解釈でYES・NOがいろいろ知識力も必要だが、NOだからと思考停止しない「型破り」な発想が、都市計画などには必要だと言っている。

答 現場主義という型の確立が、市民生活のそこそこに根付くことがあってこそ、と思っている。

竜野駅周辺整備から都市計画 三題断

問 38年前に決定の、竜野駅周辺整備の計画道路は今も有効か。

答 有効であり、それに基づき計画展開されるべきものと考えている。

問 本年度「まちづくり塾」で、竜野駅周辺全体像プランニングの必要性が訴えられた。今回の高校生を手始めに、中学生小学生を対象にする「まちづくり課外授業」を進めて行くのは可能か。

答 可能だし、創意工夫

がすすめられるだろう。

問 商工会から、土地利用を妨げる「線引き制度見直し」の提言が、近日されると伝え聞く。市勢基盤となる人口を増やす「型破り」な政策実行のヒントが、かねて訴えているようにここにある。

答 要望書提出事務についての相談を受けた段階、も都市計画特区などへの考察も必要と考える。

答 国の動向を踏まえて検討したい。

小規模校への発想転換

問 小規模校への施策として、学校の統廃合でなく、学区の統廃合とする。そして小規模校校舎を、例えばある一学年の専用にする、あるいは季節ごとに通学対象学年を変え

る、あるいは課外活動クラブや社会体育の活動の場とする。課題は通学手段だが、そのような「型破り」な発想の教育特区も考察する価値がある。

答 連続性が途絶える心配もあるが、その発想に半分は賛成してみたい。